

令和3年10月7日(木)

あかね



薩摩川内市立川内北中学校

学校だより 第288号

生徒数 744名 TEL: 23-4164

文責: 校長 感王寺 等

思い出がいっぱい

去る9月22日(水)、コロナ感染症対策を講じ、来賓や保護者の入場を制限し、第75回体育大会を開催しました。当日、明け方の雨によるグラウンド整備も終え、さあこれからというタイミングでの突然の雨…。保護者の皆様に持っていただくことになりましたが、開会式の一部をリモートで行い、選手宣誓から校庭で実施しました。プログラムも変更し、臨機応変の対応となりましたが、コロナ禍に我慢していた子どもたちのエネルギーは爆発し、思い出いっぱいの体育大会となりました。私自身、全校生徒が一同に揃う姿を初めて見る事ができましたので、とても嬉しく感じました。大会を終えた各団副団長の思いを掲載します。



3年 ハンヤ



2年 ハリケン



1年 8マン



応援団の演舞

体育大会を終えて

赤組副団長 吉村 優奈

私にとって中学校生活最後の体育大会は色々な方々の支えで、無事に良い思い出に残る最高の体育大会になりました。赤団は結局、応援の部、競技の部ともに優勝を逃してしまいましたが、解団式で団長の大迫君が言ってくれた通り、楽しくて、ずっと笑顔の体育大会になったので、少しの後悔もありません。今年は例年と違い、半日での開催、3年生のみの演舞、雨天によるリモートでの開会式になってしまいました。

コロナの影響で多くの活動が制限される中、限られたわずかな時間で、3年応援団で力を合わせ演舞の練習したこと。炎天下の中、全校生徒でたくさんの汗を流し予行練習をしたこと。筋肉痛で歩くのもやっとくらいになったハンヤ。そして、赤団副団長として、やり切ったこと。どれも最高の思い出となりました。準備してくださった先生方や生徒会体育部の二人、3人の団長には感謝しかありません。来年は何の制限のない体育大会ができますように。

白組副団長 原口 璃々

今回の体育大会を終え、川内北中学校は成長できたと思います。集団行動の大切さや、仲間と協力する楽しさ、そして何よりも、コロナ禍で開催することができた喜び。先生たちに感謝しています。

白組として優勝できたのも、応援団だけの力ではないと思います。体育大会までのみんなの頑張りに、私たち応援団は何度も背中を押されました。私が一番頼りにしていた団長ともう一人の副団長には、感謝しきれません。あのとき団長が激しく白団のみんなと向き合ってくれたお陰で、優勝をとることができたと思います。演舞で困ったときや、上手くいかないときには副団長が毎回助けくれました。不安でいっぱいだった今回の体育大会も、この二人のお陰でやり遂げることができ、私にとってこの体育大会は、一生の宝物になりました。

青組副団長 下西 葵衣

9月22日、私の中学校最後の体育大会が終わりました。朝は雨が降り、開会式もリモートとなり、不安の多い体育大会が始まりました。3年生として最後の種目のハンヤでは、「このメンバーで踊るのは最後のかな。」という寂しさとともに、時々笑顔がこぼれ、楽しく踊ることができました。なぜ、楽しく踊ることができたかということ、体育の時間にハンヤでみんなを感動させられるように、汗をたくさんかきながら努力してきたからだと思います。お陰で、素晴らしいハンヤを披露することができました。

最後に青組副団長として思ったことは、最初に副団長を任されたとき、自分が青組をまとめたかとても不安でしたが、周りの応援団が力を合わせてくれ、とても助かりました。今回の体育大会では、仲間の大切さを感じました。体育大会が無事開催されたことに、感謝したいと思います。

行事の頑張りを日常に生かしてこそ、価値は増す!

服装・身なりを整える

中間服への更衣期間となる10月の一事徹底は、「服装・身なりを整える」です。生徒会の取り組む0運動には、ネーム・組章忘れ0も含まれます。



744名の大所帯である本校が0を飾るということは、とても大きな価値があると思われま。なぜなら、生徒一人一人が気を付けないと0は達成できないからです。また、その価値ある0が継続できる学級や学年、学校であることは、他者に誇れる自慢にもなるといえます。生徒会活動の引き継ぎを間近に控えた3年生の現役員にとっても、0運動の達成と継続、伝承は大事なことでないでしょうか。その思いを感じながら、北中生全員が心を一つにした証を実証する10月でありましょう。

男子駅伝、地区優勝

9月30日(木)、地区総体の最後を飾る駅伝大会が市総合運動公園で実施され、男子優勝(27年ぶり)、女子4位の好成績を収め、11月12日開催予定の県総体駅伝競技大会への出場を決めました。



1区を3位で繋ぎ2区でトップに立った男子は後続との差をぐんぐん離し、独走の優勝。同じく1区を3位で繋いだ女子も、4位へ後退したものの粘りの走りで、出場権のかかる4位をキープ。コロナ禍の中、夏休み後半の練習もままならぬ中、男子Bも6位、女子Bも8位と健闘し、男女ともに見事な成果を収めました。男女揃って出場する指宿路に、爽やかな北中旋風を巻き起こしてほしいものです。キバレ!



【区間記録】

男子A	1区4km	紙屋	13分24秒	区間2位
	2区3km	本白水	9分55秒	区間1位
	3区3km	加来	10分25秒	区間1位
	4区3km	矢神	10分16秒	区間新
	5区3km	中宅間	10分54秒	区間2位
	6区4km	前田	13分30秒	区間1位
女子A	1区3km	東	11分49秒	区間3位
	2区2km	坂上	8分11秒	区間4位
	3区2km	永菌	7分57秒	区間2位
	4区2km	北山	8分38秒	区間6位
	5区3km	辻	11分44秒	区間2位

登下校のマナーを考える

ルールとマナーの違いを、生徒の皆さんは理解しているでしょうか。ルールは規則ですから、違反すれば罰則があります。スポーツのルールも絶対的なものですから、守らなければ競技は成り立ちません。マナーは他者への気遣いであり、礼儀です。礼儀が欠ける人に罰則はないかもしれませんが、非常識な人とみられます。

登下校時に自転車通学生の並列禁止は、本校の自転車通学規定ですからルールです。守れない状況であれば、罰則を検討しなければなりません。徒歩通学生が道路いっぱい広がっていけないのは、マナーです。マナーが悪ければ、ルールへ引き上げる必要があるかもしれません。でもそうなれば、規則の多い学校になります。現実の社会でも、昨年6月にマナー違反であったあおり運転が、妨害運転罪として重罪になりました。運転マナーの悪い人が増え、死亡事故まで起きたからです。

登校時に徒歩通学生が道いっぱい広がって自転車通学生が車道に迂回しなければならない状況、前から歩いてきたお年寄りが中学生を避けさせて通る現状、自転車に乗ったまま徒歩通学生と話をして道をふさぐ様子、残念ながら一部に見かけられる北中生の登下校の姿です。ほとんどの生徒は、ルールを守り、マナー良く登下校していると思いますが、全校生徒みんなが揃ってこそその北中ですから、他者への思いやりを行動で示してほしいと思います。自分や他人の命を守ることにつながるのですから…。



きらり北中生

① 夏休みの努力の成果。おめでとう!

【県作文コンクール 市審査】

特選	1年	二之宮 葵依	外原 夢菜
	2年	瀧野 まのん	濱田 知奈
		内 紬嘉	
3年	入江 樹里	山下 逢花	
	大石田 千夏		

【市理科作品展】

研究記録特選	1年	西園 詩織	田上 ひより
	2年	中能 妃菜	
	3年	石原 愛望	
貝類見本特選	2年	濱田 知奈	
岩石標本特選	2年	北山 菜々花	

② 紹介が遅くなりましたが、雨の日にかかわらず、下校途中にカラスが荒らしたゴミ収集所を掃除してくれた女子中学生がいたそうです。地域の方から感謝の電話がありました。素晴らしいね!

学年に忘れた家庭学習の実践を!